

作物名：きゅうり

病害虫名：褐斑病（病原：*Corynespora cassicola*(Berkeler et Curtis)Wei)

1 被害の特徴と診断のポイント



写真1 葉の病徴



写真2 分生子

- 葉に円形の褐色斑点を生じ、拡大すると2cm程度の不整形病斑となることもある。
- 炭疽病に似ているが、褐斑病は病斑の中心部に穴が開かないことで区別できる。主に葉に発生するが、葉柄や茎にも発生する場合がある。

2 伝染源・伝染方法

- 一次伝染源は種子、被害残渣、資材に付着した菌である。
- 病斑上の分生子が風などで飛散し二次伝染を繰り返す。

3 発病しやすい条件

- 高温多湿で発生が多いため、施設栽培での発生が多い。

4 防除方法

- 被害残さはほ場外に持ち出して適切に処分する。
- 定期的に薬剤散布を行い、発生を抑える。
- 施設栽培では多湿にならないよう換気を行う。

5 その他

- 宮城県ではチオファネートメチル、ジエトフェンカルブ、ボスカリド、ストロビルリン系薬剤の耐性菌が確認されているが、地域やほ場ごとに分布が異なるので、薬剤の効果を把握し、同じ系統の薬剤は連用しない。

6 出典

(1) 参考文献

- 日本植物病害大辞典（全国農村教育協会）
- 普及に移す技術第 85 号(宮城県)

(2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影

(令和5年9月改訂)